

# 安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業

【令和4年度予算概算決定額 608(615)百万円】

## <対策のポイント>

食品安全、動物衛生、植物防疫等の問題発生 of 未然防止や発生後の被害拡大防止のため、**行政施策・措置の決定に必要な科学的知見を得るための研究（レギュラトリーサイエンスに属する研究）**を、内容に応じて柔軟に規模や期間などを選択して実施します。

## <事業目標>

○ **安全な国産農畜水産物の国内外への安定供給**に資するため、**食品安全・動物衛生・植物防疫等の行政施策・措置に反映可能な科学的知見**（有害化学物質等の低減技術、高感度分析法、難防除病害虫の防除技術、家畜用ワクチン、疫学データ等）**を取得** [令和8年度まで]

## <事業の内容>

## <事業イメージ>

### 1. 課題解決型プロジェクト研究

シーズ研究から応用・開発まで、我が国の研究勢力を結集して総合的・体系的に推進すべき長期的視点が求められる大規模な研究を実施します。

（研究費・研究実施期間）

- 研究費：課題ごとに設定
- 研究期間：原則5年

### 2. 短期課題解決型研究

現存する技術シーズや知見を活用して、1～3年程度で成果が見込まれる比較的規模の小さい研究課題を短期的・機動的に実施します。

（研究費・研究実施期間）

- 研究費：3,000万円以内/年
- 研究期間：原則3年以内

※ レギュラトリーサイエンス：科学的知見と、規制などの行政施策・措置との間を橋渡しする科学

## <事業の流れ>



[お問い合わせ先] 農林水産技術会議事務局研究開発官室 (03-3502-0536)  
消費・安全局食品安全政策課食品安全科学室 (03-3502-5722)

### ① 課題解決型プロジェクト研究



#### ア 食品安全対応プロジェクト（継続）

- 省力的かつ現場で使い易いコメの無機ヒ素低減技術の開発
- 食品中の3-MCPD脂肪酸エステル類及びグリニドール脂肪酸エステル類に関する研究 等

#### イ 動物衛生対応プロジェクト（継続）

- 家畜の伝染病の国内侵入と野生動物由来リスクの管理技術の開発
- 官民・国際連携によるASFワクチン開発の加速化及びCSFの新たな総合的防除技術の開発 等

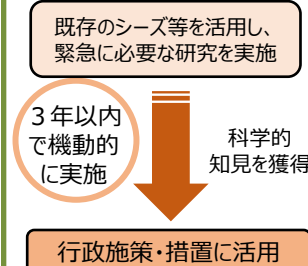
#### ウ 水産防疫対応プロジェクト（継続）

- 国内主要養殖魚の重要疾病のリスク管理技術の開発

#### エ ワンヘルス・アプローチ推進プロジェクト（代替新規）

- 人獣共通感染症等の未知の家畜伝染性疾患の発生に備えた予防法や治療法の開発 等（継続）
- 薬剤耐性菌のリスク低減に資する技術開発 等（新規）

### ② 短期課題解決型研究



#### （研究課題例）

- 乳幼児調製乳中のクロロプロパノール類及び関連物質の高感度分析法の開発
- 牛伝染性リンパ腫の伝播リスクの高い牛を摘発するための多検体処理
- 農薬の使用時におけるリスク低減に関する研究

#### （拡充）

令和3年4月策定の「安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画」に示す優先危害要因等を対象とした研究を実施

② 短期課題解決型研究（継続）

事業内容

食品安全、動物衛生、植物防疫等の分野において、適切なリスク管理措置等を講じるため、現存する技術シーズや知見を活用して、法令・基準・規則等の措置の決定に必要な科学的根拠を得るための研究を機動的に実施。

実施中の研究課題例

乳児用調製乳中のクロロプロパノール類及び関連物質\*の高感度分析法の開発

\*3-MCPD脂肪酸エステル類(3-MCPDE)、2-MCPD脂肪酸エステル類(2-MCPDE)及びグリシドール脂肪酸エステル類(GE)

食品安全上の問題点

消費者の健康保護のため、食品中のクロロプロパノール類等の低減が国際的に推奨され、我が国の関係製造業者も低減対策を実施。乳児用調製乳について、低減対策の効果検証や輸出先国の規制対応も見据えた品質管理に資するため、これら物質を十分低い濃度範囲で定量できる分析法を確立する必要がある。

行政施策・措置

乳児用調製乳中のクロロプロパノール類及び関連物質について、最新の含有実態を調査し、関係製造事業者による低減対策の効果を検証する。

行政施策・措置に必要な科学的知見

研究開発

乳児用調製乳中のクロロプロパノール類及び関連物質の総量を定量できる分析法を開発する。

牛伝染性リンパ腫の伝播リスクの高い牛を摘発するための多検体処理

動物衛生上の問題点

牛伝染性リンパ腫の国内発生は増加しており、農場内の清浄化を進めるためには、本病を伝播させるリスクの高い牛(ハイリスク牛)の目安を明確にし、更新の優先順位付けをする必要がある。

行政施策・措置

現行のガイドラインの改定を含めた牛伝染性リンパ腫対策の普及を推進する。

行政施策・措置に必要な科学的知見

研究開発

低コストかつ多検体処理が可能な検査法を開発する。また、同法を用いてハイリスク牛の判断基準を設定を検討し、実農場において、清浄化対策の検査法としての有効性を確認する。

農薬の使用時におけるリスク低減に関する研究

生産資材の安全上の課題

土壌くん蒸剤のクロルピクリン剤は、土壌病害虫を防除する農薬であり、使用時に適切に被覆を求められている。同剤の使用によるリスクをさらに低減する対策を検討する必要がある。

行政施策・措置

クロルピクリン剤の被覆に関する適正な取扱いの指導や規制の検討に活用する。

行政施策・措置に必要な科学的知見

研究開発

被覆資材の材質・厚さや環境条件によるクロルピクリン剤の揮散防止効果等の科学的知見を収集する。

今後

R3年4月策定の「安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画」(新RS計画)に示す優先的に対応すべき危害要因等の研究を、計画的に実施。

このため、R4年度より新RS計画に基づく研究課題(対象:有害化学物・微生物、家畜疾病、植物病害虫、水産疾病)及びR3年度内に新たに発生すると想定される課題を確実に実施。これに対応する予算を拡充。

安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画

優先すべき危害要因等をリスト化

- ・有害化学物質
- ・有害微生物
- ・動物疾病
- ・植物病害虫
- ・水産動物疾病